停留精巣

1. 疾患名ならびに病態

停留精巣

リラックスした状態でも、陰嚢内に精巣を触知しない状態

2. 小児期における一般的な診療

✧ 主な症状

陰嚢内での精巣非触知。

✧ 診断の時期と検査法

【診断時期】

リラックスした状態でも、精巣が陰嚢内に触知しないことで発見される。生後間もなくは精巣が自然下降することもあるため、しばらくは経過観察可能である。

✧ 治療法

腹腔内精巣や 1 歳までに精巣を触知しない場合、停留精巣側と比較し健側の精巣肥大が出現している場合には速やかに精巣固定術が検討される。腹腔内精巣においては、腹腔鏡補助下での固定術が行われることもあるが、精巣萎縮が明らかな場合は、除睾術が選択されることもある。

✧ 合併症および障がいとその対応

合併症、後遺障害とその対応

【生殖機能】

生殖機能を決定する要因は 1 つではないが、停留精巣、特に腹腔内精巣においては、妊孕性が低下することがわかっており、適切な時期に精巣固定術を選択することで、進行を予防する。患側の精巣萎縮を生じると対側（健側）精巣は肥大することが多い。長期フォローアップでは、精巣の成長を確認する。

【発癌】

腹腔内精巣を放置すると癌化のリスクが高いという報告がある。また停留精巣術後、萎縮していた精巣が急に増大した場合には、発癌を疑い速やかに精査・加療（睾丸摘出・病理検査）を行う。

3. 成人期の課題

✧ 医学的問題

多くの患者では、思春期までにフォローアップは終了するが、萎縮精巣などでは定期的に小児外科や泌尿器科で検査を行い、合併症・後遺症についての情報提供を行う。なお、成人の停留精巣は癌化しやすいという報告もあり、注意を要する。

4. 社会支援

✧ 医療費助成

【小児慢性特定疾患事業】

対象疾患となっていない。

【特定疾患研究事業】

対象疾患となっていない。

【身体障害者手帳】

対象疾患となっていない。

【特別児童扶養手当】

対象疾患となっていない。

【自立支援医療（育成医療）】

対象疾患である。

〔参考文献〕

1. 外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック（第 2 版）
http://www.jsps.or.jp/magazine-research/othermagazine

2. 日本小児外科学会トランジション検討委員会　外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック　日本小児外科学会雑誌 59 巻 1 号 Page86-99(2023.02)

〔文責〕

日本小児外科学会トランジション検討委員会